

精華町地球温暖化対策地域協議会 議事要旨

■日時・場所

- 令和2年2月26日(水) 13時30分～14時30分
- 精華町役場 6階 審議会室

■内 容

1. 開会(司会:山口事業部次長兼都市整備課長)

- ・新たに委嘱した委員の紹介
- ・若林委員退任の報告
- ・資料確認
- ・協議会の公開と、会議録を作成することについての説明

2. 公共交通利用転換事業計画の施策の進捗状況について

(1) 公共交通利用転換事業計画の効果検証について

■公共交通利用転換事業計画 効果検証(2年目)について

(資料① 京都府文化学術研究都市推進課 佐伯主事)

- ・今年度の検証結果は、CO2削減量が1,501t/年で、目標削減量680t/年に対し221%の削減量となった。
- ・既存企業従業員の平均転換距離や新規立地企業の公共交通利用者が予測よりも多かったことが要因であるが、バスの減便を実施できなかったなど、項目別で見ると目標を達成できなかったものもある。

■連節バスの利用状況について

(資料② 奈良交通 大久保統括次長)

- ・連節バスの利用者は増加傾向で、特にラッシュ時間帯の祝園駅8:15発と8:35発の便が爆発的に増えており、現在は多い時で1便の利用者が100名を超えることもある。
- ・要因は、昨年秋に新規立地企業の従業員移行が本格的に進み、約500人の通勤者が増加したことによるもので、12月に増便を行い対応しており、朝のラッシュ時は3分に1本の頻度で運行している状況。
- ・今後も増加すると思われ、引き続き増便等により対応していきたいと考えている。

■連節バス 光台ルートについて

(資料③ 精華町都市整備課 正木主査)

- ・連節バスの光台ルートについて、光台循環線を走るルートが現在環境省へ申請しているルートになるが、本ルートの実現にはバス停の改良等による安全性確保が必要。
- ・将来的な学研奈良登美ヶ丘駅までのルートや、現在の住民や企業のニーズも踏まえた上で、幅広くルートを検討していく。

■直通バス利用状況

(資料④ 京都府文化学術研究都市推進課 佐伯主事)

- ・現在の一便あたりの利用者数は約 20 人で、運行当初から見ると年々増加している傾向にあり、引き続き、けいはんな学研都市と京都駅間の快適な移動環境の整備に努めていく。

(2) その他

■スマートシティモデル事業について

(資料⑤-1 京都府文化学術研究都市推進課 佐伯主事)

- ・昨年度、新技術を活用した都市及び地域課題の解決を目指すスマートシティモデル事業の公募を国交省が行い、京都府のスマートけいはんなプロジェクトが先行モデルプロジェクトとして選定された。
- ・本事業では、精華西木津地区において、シェアサイクルやグリーンスローモビリティ等の導入も含んだ MaaS の整備や、AI スピーカーを活用した高齢者向けデマンドバスの導入を検討している。
- ・5年間の計画で今年度は計画段階であるが、PiPPA と呼ばれるシェアサイクルの実験を行ったところ。

■スーパーシティ構想について

(資料⑥-1 京都府文化学術研究都市推進課 佐伯主事)

- ・スーパーシティ構想とは、AI やビッグデータ等の最先端技術を活用し、未来の暮らしを先行実現するもので、都市全体の大規模な規制緩和が伴う構想となっている。
- ・具体的には、域内の自動運転やキャッシュレス決済、遠隔医療の実現を内閣府で想定されており、来年の8月にモデル都市の公募が行われることから、京都府においても応募すべく準備しているところ。
- ・内容としては、自動運転の導入や AI による健康管理システムの導入などを考えており、スーパーシティの方でも環境負荷のかからない施策を進めていければと考えている。

■令和2年春ダイヤ改正の概要

(資料⑦ 奈良交通 大久保統括次長)

- ・鉄道のダイヤ改正が3月14日にあるので、バスもそれに合わせ改正を予定している。
- ・改正内容は、平日朝5時台の始発便の増便、平日夕方18時台の光台四丁目ー祝園駅の便を1便増便、22時台の祝園駅ー登美ヶ丘駅の便を1便増便、また、土日についても一部増便を予定している。
- ・今後、運行便数や時刻の若干の変更はあるかもしれないが、正式な改正内容については告示等で皆様にお知らせさせていただく。
- ・また、資料はないが、弊社の路線がグーグル検索に対応するようになったので、機会があればご利用いただければと思う。

【質疑・意見】

(土井会長)

- ・補足だが、グリーンスローモビリティとはゴルフカートによる公道走行であり低速車両により地域に馴染みやすい仕組みができないかということで、幹線道路は中々走ることはできないが、生活道路を走行して幹線道路まで人を運ぶ仕組みとしては有効ではないかと考えている。

(松田委員)

- ・グリーンスローモビリティを含むスマートシティの取組みは、AI や IoT により社会の課題解決を図るといのが大きなテーマであり、高齢化が進んだ精華西木津地区における高齢者の足の確保にも活用できると考えている。
- ・スーパーシティについては、カナダのトロントや中国の広州のような究極的な規制緩和地区を日本に数か所作る構想で、背景にはスマートシティ分野で米中にかなり遅れをとっているという焦りがあると思われる。

(中川委員)

- ・グリーンスローモビリティや AI スピーカーの実験は既にされたのか？
→シェアサイクルは導入したが、その他については来年度以降の導入に向け検討中である。(京都府 佐伯主事)
- ・検討の内容は？
→まだ固まっておらず、来年度以降の課題となっている。(京都府 佐伯主事)
- ・グリーンスローモビリティの実験は有人か？
→有人である。(京都府 佐伯主事)
- ・この分野においては、諸外国に比べ日本は極めて遅れており、追いついていく中でも精華西木津地区は日本の先頭となって取り組んでいける地域と思うが、この取組みはあまり成功事例はないので工夫して取り組んでもらえたらと思う。

(松田委員)

- ・おっしゃるとおりグリーンスローモビリティの取組みは成功事例は少ない一方で、いつまでも公費を投入して実験を続けるわけにはいかないため、成功の肝としてはいかに採算性を確保するかにかかっていると考えており、持続可能で自立した仕組みづくりに知恵をいただければと考えている。

(土井会長)

- ・近年バスの運転手不足が叫ばれる中、自動運転技術の導入が必要となっているが、完全に無人で運転できるようになるのはまだまだ先であり、まだまだ運転手は必要となるので、運転手が増える取り組みをしていただけるとありがたい。

(木原委員代理)

- ・自動運転技術の完全導入はまだまだ先で、来年度大津と三田で中型バスを用いた自動運転の実験を行うが、安全性の問題で何かあったときにブレーキをかける運転手は必須となっている。

- ・また、仮に無人の自動運転が実現できたとしても、車いす利用者の乗降などバリアフリーの観点から無人はどうなんだという議論も出始めている。

(林委員)

- ・住民の立場として意見を言わせていただくと、スマートシティやスーパーシティといった取り組みが本町で行われるのは誇らしいが、町の中でも先進的な取り組みに積極的な地域とそうでない地域がある。
- ・先進技術に慣れていない人たちに AI などの技術を頭ごなしに導入することについては疑問であり、デジタルデバイドをいかに解消するかを考えていく必要があると考えている。

(土井会長)

- ・誰でも使える仕組みが必要で、実験を重ねながら技術のハードルを下げていっていただければと思う。

3. 精華町地球温暖化対策地域協議会の今後のスケジュールについて

(資料⑧ 精華町都市整備課 大賀課長補佐)

- ・令和2年度は、引き続き公共交通利用転換事業計画の効果検証を行う。
- ・4年目と5年目にあたる令和3～4年度については公共交通利用転換事業計画の総括に向けて動いていければと考えている。

4. 閉会